

公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター
手術部部門システム一式

要 求 仕 様 書

公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター

ハードウェア基本要件

項番	要求仕様		備考
1	ハードウェア		
1	サーバ(1) メインサーバ		
1	1 CPUはIntel社製 XeonプロセッサE-2434相当以上を搭載すること。		
2	2 8.0GB以上のメモリを搭載すること。		
3	3 ハードディスクは600GB×4以上とし、RAIDコントローラによるRAID1もしくはRAID5構成、且つホットプラグに対応した構造であること。		
4	4 ネットワークインターフェイスは1000Base-T対応であること。		
5	5 オペレーティングシステム（以下「OS」という。）はMicrosoft社製Windows Server 2022 日本語版相当以上であること。		
6	6 データベースソフトは、Microsoft社製SQL Server 2022 相当以上であること。		
7	7 メインサーバとバックアップサーバはソフトウェアクラスタリングを行い、どちらかのサーバが故障した場合でも運用を継続できる仕組みであること。もしくは、仮想化の仕組み等で同等の対応が可能であること。		
2	サーバ(2) バックアップサーバ		
1	1 CPUはIntel社製 XeonプロセッサE-2434相当以上を搭載すること。		
2	2 8.0GB以上のメモリを搭載すること。		
3	3 ハードディスクは600GB×4以上とし、RAIDコントローラによるRAID1もしくはRAID5構成、且つホットプラグに対応した構造であること。		
4	4 ネットワークインターフェイスは1000Base-T対応であること。		
5	5 OSはMicrosoft社製Windows Server 2022 日本語版相当以上であること。		
3	サーバ(3) HISゲートウェイサーバ		
1	1 CPUはIntel社製 XeonプロセッサE-2434相当以上を搭載すること。		
2	2 8.0GB以上のメモリを搭載すること。		
3	3 ハードディスクは300GB×3以上とし、RAIDコントローラによるRAID1もしくはRAID5構成、且つホットプラグに対応した構造であること。		
4	4 ネットワークインターフェイスは1000Base-T対応であること。		
5	5 OSはMicrosoft社製Windows Server 2022 日本語版相当以上であること。		
4	サーバ(4) NAS（データ保存用サーバ）		
1	1 CPUはIntel社製 XeonプロセッサE-2434相当以上を搭載すること。		
2	2 8.0GB以上のメモリを搭載すること。		
3	3 ハードディスクは600GB×4以上とし、RAIDコントローラによるRAID1もしくはRAID5構成、且つホットプラグに対応した構造であること。		
4	4 ネットワークインターフェイスは1000Base-T対応であること。		
5	5 OSはMicrosoft社製Windows Server 2022 日本語版相当以上であること。		
5	無停電電源装置		
1	1 サーバの電源容量を確保できる無停電電源装置を備えること。		
2	2 無停電電源装置は設定した時間内に通常通電がない場合には、サーバの安全なオートシャットダウンが可能であること。		
6	管理者用端末		
1	1 サーバ管理者が現地作業等を実施するための専用端末を1台有すること。		
2	2 CPUはCore i5相当以上であること。		

ハードウェア基本要件

項番	要求仕様	備考
3	メモリは4GB以上であること。	
4	ハードディスクは100GB以上を有すること。	
5	ネットワークインターフェイスは1000Base-Tに対応していること。	
6	OSはMicrosoft社製Windows 11 Professional 日本語版相当以上であること。	
7	サーバラックに搭載されるサーバのキーボード、マウス、ディスプレイを1台のキーボード、マウス、ディスプレイで扱うことができるようにCPU切替器を装備すること。もしくは、他のシステムで使用しているCPU切替器を共用すること。	
8	17インチ以上のカラー液晶ディスプレイ（解像度：1280×1024）を1面装備すること。上記CPU切替器にディスプレイが含まれる場合は不要とする。もしくは他のシステムのディスプレイを共用できること。	
7	クライアント端末、進行表示用端末、管理者端末、センター端末（デスクトップ）	
1	端末はデスクトップPCとし、ディスプレイは液晶ディスプレイを装備すること。	
2	CPUはCore i5相当以上であること。	
3	OSはWindows 11 Pro相当以上の性能、機能であること。	
4	内蔵ハードディスクの物理容量は256GB以上であること。	
5	メモリは4GB以上であること。	
6	クライアント端末のディスプレイは、21.5インチ以上のカラー液晶ディスプレイ（解像度：1920×1080以上）を装備すること。	
7	100 BASE-TXおよび1000BASE-T対応のネットワークインターフェースを有すること。	
8	キーボード及びUSB接続タイプ／光学式マウスを有すること。	
9	シリアルポート（RS232C）を有すること。	
10	その他各業務に必要な機能・性能を有する機器を導入すること。	
8	クライアント端末（ノート）	
1	CPUはCore i5相当以上であること。	
2	OSはWindows 11 Pro相当以上の性能、機能であること。	
3	内蔵ハードディスクの物理容量は256GB以上であること。	
4	メモリは4GB以上であること。	
5	ディスプレイは、解像度1920×1080ドット以上、15.6インチ以上のカラー液晶ディスプレイであること。	
6	100 BASE-TXおよび1000BASE-T対応のネットワークインターフェースを有すること。	
7	USB接続タイプ／光学式マウスを有すること。	
8	その他各業務に必要な機能・性能を有する機器を導入すること。	
9	カラーレーザープリンタ	
1	印字方式は乾式電子写真方式（レーザービーム）相当であること。	
2	用紙サイズはA3、A4対応であること。	
3	印字速度はA3カラー印刷時15枚/分以上、A4カラー印刷時26枚/分以上であること。	
4	解像度は1200dpi以上であること。	
5	その他各業務に必要な機能・性能を有する機器を導入すること。	
10	バーコードリーダ	
1	1次元バーコードの読み取りができること。	

ハードウェア基本要件

項番		要求仕様		備考
	2	光源は可視光半導体レーザであること。		
	3	インターフェースとして、USBに対応できること。		
	4	その他、当該業務に必要な機能・性能を有すること。		
11	進行表示用ディスプレイ			
	1	進行表示用ディスプレイは既設のディスプレイを継続利用とする。ステータスマニタ用クライアント端末の入れ替えを行い、その端末と接続して映像を表示できること。		
	2	その他各業務に必要な機能・性能を有する機器を導入すること。		

業務アプリケーション機能要件（手術部部門システム）

項番	要求仕様	備考
1	手術部部門システム	
1	基本要件	
1	以下の専用機器を導入すること。 ・デスクトップ端末 ×16式（キーボード、マウス含む） 手術室 ×5式、ステータスモニタ用×1式、麻酔科医控え室×1式、スタッフステーション1式、透視室×1式、内視鏡室 ×3式、予備機 ×4式 ・ノート端末 ×10式（マウス含む） 手術室 ×5式、血管撮影室 ×1式、X線TV室 ×1式、予備機 ×3式 ・液晶タッチディスプレイ ×6台 手術室 ×5式、予備機 ×1式 ・液晶ディスプレイ ×7台 麻酔科医控え室×1式、スタッフステーション1式、内視鏡室 ×3式、X線TV室 ×1式、予備機 ×1式 ・バーコードリーダ ×16台 ・A3カラーレーザプリンタ ×3台 ・ステータスディスプレイ(32inch以上) ×3台	
2	患者データ収集、管理、保持、保存、及び患者の入退室や移動の管理ができること。	
3	10室以上で管理が可能であること。（手術室5室、透視室1室、内視鏡室3室、血管造影室1室）	
4	クライアント端末数をライセンス管理し、管理外端末からのアクセスを防止できること。	
5	麻酔記録、看護記録の入力データは一つのデータベースに保存され、データを一元管理できること。	
6	端末ごとに麻酔記録用端末、看護記録用端末などの役割を設定できること。また、役割設定に応じた起動時の画面を構成できること。	
7	画面や患者の切替えは容易にできること。（メニュー、タブ切替え、リスト選択等）	
8	解像度がフルHDのディスプレイにも対応できること。	
9	データ復旧が必要となる場合を考慮し、日次処理等によるデータのバックアップ機能を有すること。また、通常業務の遂行に支障なく、バックアップは自動で行うこと。	
10	既存フィリップス社手術支援システムのデータ移行の範囲は、患者一覧（台帳）、手術スケジュール、麻酔記録（術前回診、術後回診記録含む）、看護記録（術前訪問、術後訪問記録含む）とする。	
11	既存フィリップス社手術支援システムの麻酔記録、看護記録のデータは、次期システムにおいても、電子カルテシステムから参照可能であること。	
12	既存フィリップス社手術支援システムの麻酔記録（術前回診、術後回診記録含む）、看護記録（術前訪問、術後訪問記録含む）のデータは、次期システムにおいても、別途記載の検索機能の検索対象になるようデータ移行すること。また、検索結果でリストに絞り込まれた患者一覧から、麻酔記録、看護記録、術前回診記録、術後回診記録、術前訪問記録、術後訪問記録の呼び出しに対応できること。	
13	既存手術室のフィリップス社生体情報モニタからのデータを1分単位のデータとして保持すること。	

業務アプリケーション機能要件（手術部部門システム）

項番	要求仕様	備考
2	セキュリティ	
1	ログイン機能による権限管理を行い、その権限に合わせた操作メニューが表示できること。（電子カルテシステムからの結果照会シングルサインオンが可能であること。）	
2	職員ごとに職種、診療科、システムの操作権限を付与できること。	
3	職員ごとに本システムの機能単位で参照権限、更新権限を設定できること。	
4	医師の場合は研修医の設定ができること。	
5	麻酔科医の利用者の場合、標榜医、指導医の設定ができること。	
3	手術予定一覧・スケジューリング機能	
1	電子カルテシステムの手術・麻酔申し込み情報（オーダ）を受信し、表示できること。また、受信した情報からスケジューリングができること。	
2	緊急手術時には、本システム側で麻酔記録を作成でき、後から電子カルテシステムにて発行された手術・麻酔申し込み情報（オーダ）との紐付けができること。	
3	指定した日付の手術予定一覧を表示できること。	
4	期間指定、患者ID、患者氏名、診療科、病棟、麻酔科医等で検索でき、複合組み合わせによる検索もできること。	
5	手術予定一覧の項目には、手術日、手術室、患者ID、患者氏名、カナ氏名、年齢、性別、診療科、病棟、病名、術式、麻酔科医、執刀医、助手、手術進行状況等が表示できること。	
6	手術予定一覧の項目の各タイトル部分をクリックすることで、一覧の並び順をソートできること。	
7	手術中止症例、麻酔科非関与症例が、一覧や色の識別で確認できること。	
8	手術中止症例、麻酔科非関与症例が一覧等で確認できること。	
9	緊急申込み、感染症の有無などが一覧等で確認できること。	
10	手術予定表を印刷することができること。	
11	帯グラフ表示での手術スケジュールが作成できること。	
13	帯グラフ上の症例にマウスカーソルをあてると、その症例の手術情報がポップアップ画面で表示されること。	
14	手術スケジュール作成時の帯グラフ（予定）と手術実施後の帯グラフ（実績）を上下に並べて表示できること。	
15	麻酔記録および看護記録のイベントと連携し、各手術の進捗状況を表示すること。（ステータスマニタに表示すること）	
4	患者入退室管理機能	
1	入室予定、入室中、退室といった患者の在室状態を管理できること。また、入室前から退室後までの情報を入力できること。	
2	患者の在室状態に応じた各リストを装備し、患者の移動を管理できること。	
3	各リストの患者データは総件数及び項目毎（患者氏名、ID、入室日時等）で表示することができること。また、各項目でソートをかけることができること。	
4	入室時に患者取り違えを防ぐため、患者のバーコードから予定のある患者の入室操作ができること。	
5	入室する患者のバーコードを読み取り、医師または看護師のバーコードとともに認証できること。	
6	緊急入室患者の場合は、患者IDがない状態で仮の患者登録を行い、入室し、ベッドサイドモニタのデータ取り込みや麻酔記録等の作成ができること。また、後から申し込みを受信した場合には、患者IDをキーとして紐付けができること。（身元不明患者に関する当センターの運用を確認して調整すること）	

業務アプリケーション機能要件（手術部部門システム）

項番	要求仕様	備考
7	使用予定があるベッドは、予め確保することができること。	
8	各リストから該当患者の各種画面を起動し、情報を参照できること。画面切り替えは、ポップアップ表示した操作パネルでも行うことができ、操作パネル内に配置するボタンはユーザ管理者が変更できること。	
9	各ベッド表示には患者ID、患者氏名、性別、感染症の有無、担当医等を同一画面上に同時表示できること。	
10	入退室の時間等、記録の変更が可能であること。	
5	麻酔記録機能	
1	入室から退室までの麻酔記録を作成できること。	
2	麻酔記録は24時間、12時間、8時間、6時間、4時間、2時間、1時間、30分表示に切り換えができること。	
3	患者属性情報を表示できること。	
4	麻酔記録画面はトレンド情報、イベント情報、リマークス情報、体位/ライン情報、サブトレンド情報、薬剤情報、IN/OUT情報、術中血液分析データ情報等を画面表示できること。また、トレンド情報、イベント情報、リマークス情報、体位/ライン情報は常に表示されること。	
5	サブトレンド情報、薬剤情報、IN/OUT情報、術中検査データ、リマークス情報は、画面の切替えをすることなく、スクロール等で全ての情報が参照できること。また、表示順はカスタマイズできること。	
6	イベント入力、硬膜外情報入力、脊椎麻酔入力、局所麻酔入力（内視鏡室や血管造影室でも利用）、挿管/抜管、薬剤入力、IN/OUT入力、術中検査データ入力、体位/ライン情報入力、リマークス入力、退室時サマリ等、それぞれ入力必要事項をまとめた専用画面を有すること。	
7	リマークス情報、サブトレンド情報、薬剤情報、IN/OUT情報、術中血液分析データ情報等は画面を切り替えることなく、スクロールすることで全て参照できること。また、表示順はカスタマイズできること。	
8	トレンド表示のトレンドデータの種類、表示色、スケールは術中においても任意に選択できること。	
9	表示するディスプレイに応じて、ワークスペースを拡大して表示ができること。	
10	タッチパネルディスプレイを使用した場合でも対応できること。画面上でのキーボード操作もソフトキーボードでマウスを使わずに文字入力ができること。	
11	麻酔開始/終了を入力する際に、併せて代表的な薬剤/輸液の開始量、停止の入力が連動できること。その代表的な薬剤/輸液は開始時投与量を含め、ユーザ側で選択・設定できること。	
12	どの表示時間幅の場合でも、トレンド情報、イベント情報、リマークス情報、薬剤投与情報、体位/ライン情報等、各情報の記録時間をもとに時系列が把握できる表示であること。また、それぞれの項目を時系列を合わせて表示でき、時刻移動すると他の項目も連動して画面遷移すること。	
13	トレンドグラフに表示されるバイタル情報は、現在モニタで計測されているパラメータから選択し表示ができること。	
14	ベッドサイドモニタや本システムと接続するME機器から得られる全ての数値データを保存できること。	
15	ベッドサイドモニタのバイタルデータを自動取込みし、1分、5分、15分、30分、1時間、2時間等の確定間隔で自由にプロット間隔を変更できること。自動取込する間隔は当センターの要望に応じて設定できること。	
16	麻酔所要時間、手術所要時間はそれぞれ開始、終了時間から自動算出できること。	
17	輸液、輸血/出血、尿のIN/OUTデータは増分入力、全量（積算）入力の2つのどちらのモードでも入力でき、実施情報をIN/OUT情報として表示できること。	
18	薬剤名リストは麻酔薬、外用薬などの分類ごとに分けられ、選択した種類に応じた薬剤名が表示されること。	
19	薬剤名リストの表示画面で薬剤の検索ができること。	

業務アプリケーション機能要件（手術部部門システム）

項番		要求仕様	備考
	20	麻酔薬の項目は3つ以上表示できること。	
	21	1つの薬剤名称に対して複数の薬剤を混ぜ合わせたセットを登録できること。この場合、混ぜ合わせる割合はセットから選択時に変更できること。	
	22	薬剤の分類に応じて麻酔記録での薬剤表示色を設定できること。	
	23	薬剤選択時には既に入力済みのライン情報が優先的に表示され、経路情報として利用できること。	
	24	脊椎麻酔または局所麻酔で入力した薬剤は、自動的に他の画面に薬剤名称、投与量が表示されること。	
	25	麻薬など特定薬剤の横計を最終値として手入力で修正できる機能を搭載していること。	
	26	輸液・輸血入力は、ルート別、製剤別のどちらからでも入力が可能なこと。ルート別入力の場合、ルート情報の設定後、投薬を選択し投与量を入力する機能を有するとともに、ルート指定がない場合でも登録ができること。	
	27	輸液入力については、混合薬も同時に設定できること。また残量入力と投与量入力の選択ができること。	
	28	輸液の停止と共に次の新規輸液を選択する行為を一連の操作でできること。	
	29	輸血情報入力時に、U（ユニット）、mlのどちらの単位でも入力できること。また、U入力時には自動的に合算量はmlへ変換されること。	
	30	持ち込み薬剤の場合に、バランスには反映されるが、手術伝票には反映しない形にできること。	
	31	使用した薬剤一覧、輸血一覧の確認ができること。	
	32	麻酔ガスなど計算が必要な薬剤も、自動的に時間算出できること。	
	33	リマークス（定型文入力）内容は、麻酔管理、手術操作、合併症等の分類に分けて設定することができ、リストから選択式で入力できること。また、選択後に任意の文言に修正できること。	
	34	血中の薬物濃度を予測計算する機能を有すること。	
	35	帳票として印刷できること。また印刷する情報は選択でき、印刷前にプレビューで確認ができること。	
	36	12時間以上の麻酔チャートが印刷できること。	
	37	手術中に他室の麻酔記録を参照できること。また、参照画面は1分ごとに自動的に更新されること。	
	38	麻酔記録として記録必須な項目の入力漏れをなくするためのチェック機能を有すること。また、未入力として検出された必須項目は、入力用ダイアログを表示することによって、各画面の必須項目を確認して回ることなく、未入力部分の入力が可能であること。	
6	看護記録機能		
	1	入室から退室までの看護記録が作成できること。	
	2	患者属性は手術予定情報や麻酔記録などで記録されたデータを自動転記することができること。	
	3	入力された麻酔記録のデータ及びベッドサイドモニタからのトレンドデータを表示し、看護記録のデータ、各種イベントを入力することができること。	
	4	術中看護記録には、術中体位、術中バイタルトレンド、経過記録、観察データ、薬剤、看護イベントなど項目毎にデータの参照及び入力ができること。またそれらの項目は、ユーザが自由に組み合わせて画面表示できること。設定された項目は必要な全情報表示やウィンドウの最大化、最小化によって表示選択も可能であること。	
	5	術中バイタルトレンドは表示のOn/Offができること。	
	6	手術情報はマスタからの入力ができること。水分バランスや硬膜外麻酔情報、脊椎麻酔情報、神経ブロック情報、挿管情報などは、麻酔記録で入力したデータを自動で記載できること。	
	7	シェーマを用いた記録が行えること。	
	8	シェーマは事前に複数の画像を組み合わせでセット登録ができ、手術中に利用できること。	

業務アプリケーション機能要件（手術部部門システム）

項番		要求仕様	備考
	9	尿量などのアウト項目の入力時には、トータル量、前回からの増加量のどちらでも入力ができること。また、値の入力だけでなく、少量、不明の記載が可能であること。	
	10	術中に使用した薬剤のデータを入力できること。	
	11	使用器具や薬剤などをマスタから選択して入力、表示できること。	
	12	水分IN、水分OUT、血液IN、血液OUTデータの入力、表示ができること。	
	13	手術経過の入力ができること。	
	14	手術中に他室の看護記録を参照できること。また、このとき参照画面は1分ごとに自動的に更新されること。	
	15	帳票として印刷できること。	
7	手術進行画面		
	1	手術の進行状況を状態別に識別表示できること。（入室中、麻酔中、手術中、手術終了、麻酔終了等）	
	2	状態の識別表示は麻酔記録のイベント入力と連動して、状態が変更されること。	
	3	各ベッド表示には診療科、患者氏名、年齢、性別、予定術式、術者、麻酔医、入室予定、所要時間、手術開始、手術経過、移動先等を別画面ではなく同一画面上に同時表示できること。	
	4	病棟等の医療情報端末（電子カルテ端末）からも手術進捗状況を参照することができること。	
8	麻酔台帳作成機能（学会対応）		
	1	本システムで有するデータで、JSA麻酔学会台帳に必要なデータを出力できること。またはJSA麻酔学会報告が可能な機能を有すること。	
	2	JSA麻酔台帳項目の入力、表示ができること。	
	3	JSA必須項目の未入力チェック機能を有し、メッセージ表示と、未入力の該当項目のマークアップができること。	
	4	偶発症の入力の際、必須項目が抜けていれば警告を知らせることができること。	
	5	JSA PIMSのJSA麻酔法の区分変更に対応していること。	
	6	JSA PIMSの麻酔指導医・指導医マスタとの連携が可能であること。	
	7	手術開始・終了時刻、麻酔開始・終了時刻などは、麻酔記録入力データとリンクし自動計算ができること。	
	8	帳票として印刷できること。	
9	手術伝票		
	1	手術中に使用した薬剤や加算情報の入力、表示ができること。	
	2	麻酔記録画面に入力された手術中に使用した薬剤、輸液などを自動表示できること。	
	3	薬剤を追加登録する際、薬剤選択時に、マスタに薬剤有効期限が登録されている場合、薬剤が有効期限切れであることを表示すること。また、有効期限切れである薬剤は登録ができないこと。	
	4	薬剤単位を登録することにより、使用量からアンプル数、ボトル数を自動算出できること。	
	5	麻酔記録画面に入力された加算情報（手術時間や麻酔法等）を自動表示できること。	
	6	麻酔加算項目の入力は、ラジオボタン等でワンクリック選択（入力）ができること。	
	7	帳票として印刷できること。	

業務アプリケーション機能要件（手術部部門システム）

項番	要求仕様	備考
10	検索・統計機能	
1	日単位、月単位などの手術患者一覧が表示でき、印刷できること。	
2	患者情報から各種統計内容が表示でき、CSV等でデータ出力できること。	
3	患者情報からベッド利用状況や、診療科別集計、麻酔法別集計、偶発症発生別集計等の統計機能を有すること。	
4	患者属性データ、およびバイタルサインデータを検索条件として、該当患者を検索できること。また、以下の方式で検索できること。 ・指定型：病名、術式などを検索 ・範囲型：生年月日、入室日、退室日などを、日付や期間を指定して検索 ・複合型：病名、術式などを複合指定して検索	
5	検索対象として、任意の期間を設定できること。また、前月・今月・本日はワンクリックで指定できること。	
6	検索条件として、論理演算式を使用できること。	
7	検索条件を保存し、その検索条件を再検索時に使用できること。	
8	検索結果は、検索条件およびその他の患者情報を含めてリスト表示できること。また、検索結果をCSVで出力できること。	
9	検索結果は、該当件数を表示できること。	
10	検索結果の表示リストから、該当患者の各種画面を起動できること。	
11	患者基本情報からの統計・検索だけでなく、システム上のトレンドなどの生体情報からの検索、さらに複合検索が行なえること。またそのデータに基づく各種統計処理も行えること。	
12	システム構築時に当センターの担当者や協議の上、可能な限り、統計内容や項目を調整すること。	
11	マスタメンテナンス	
1	上位システムと同期が必要なマスタは、上位システムと連携し、同期できること。	
2	ユーザ側で更新が必要なマスタについては、マスタメンテナンス機能を有すること。この場合、権限のあるユーザのみメンテナンスすることができること。	
3	マスタメンテナンスマニュアルを作成し、納品すること。	
12	システム連携	
1	患者属性情報をHIS側から受信すること。	
2	手術・麻酔申し込み情報（オーダ情報）をHIS側から受信すること。連携する項目はシステム構築時に当センターと協議の上、決定すること。以下は参考情報とする。 診療科名、患者氏名、患者ID、年齢、生年月日、性別、身長、体重、病名、入力者、術者、助手、手術予定日、予定術式、予定手術時間、血液型、感染症、術前合併症と治療経過 等	
3	仮ID発行時などは、患者IDを変更して患者属性の再取得が可能であること。	
4	HIS側から手術スケジュール確定情報を受信し、手術予定リストに反映できること。	
5	HIS側から検体検査結果情報を受信できる機能を有すること。	
6	術後の実施情報（麻酔・手術時間、使用薬剤、スタッフ情報、確定術式等）は麻酔記録から麻酔伝票として集計され、HISへ実施情報を送信できること。	
7	連携先の費用も含め、システム連携にかかる全ての費用は本費用内で対応すること。	

業務アプリケーション機能要件（手術部部門システム）

項番		要求仕様		備考
	13	医療機器との接続		
		1 手術室の既存フィリップス社製生体情報モニタからの数値情報を取り込めること。		
		2 手術室の既存フィリップス社製生体情報モニタからの波形情報を取り込めること。取り込んだ波形は1ヵ月間保存し、それ以降でも利用者が必要と判断した波形データは任意に保存できること。		
		3 医療機器との接続にかかる全ての費用は本費用内で対応すること。		